

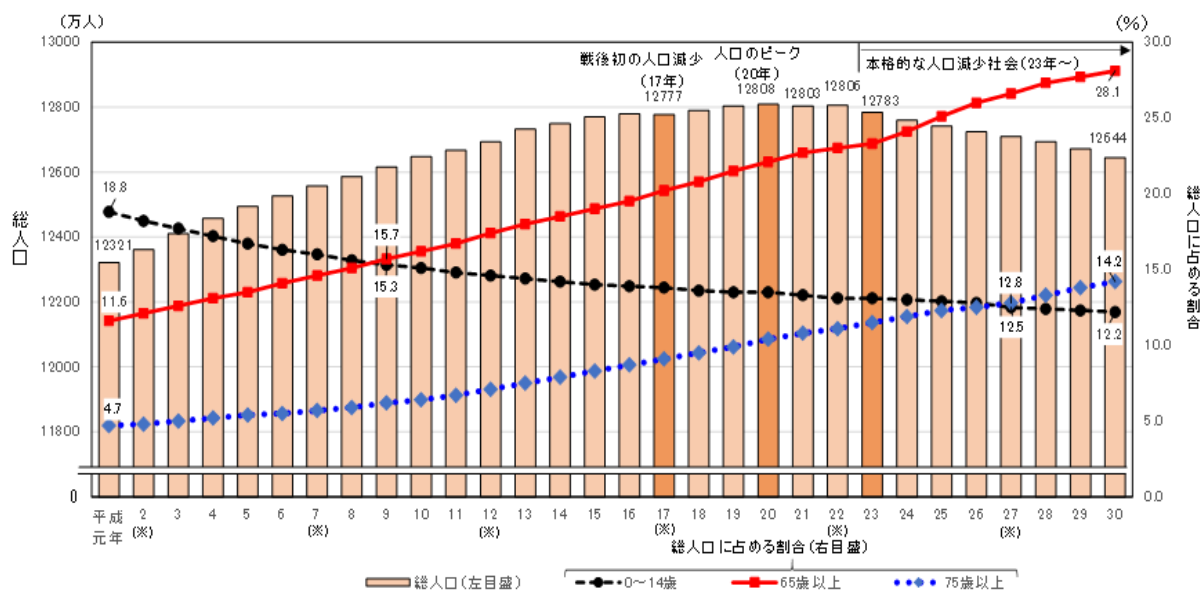
## 香川県をより一層かがやく県にするために

～安心して子供を生み育て生き生きと自らを実現しながら老いることのできる町づくり～

香川県立琴平高等学校 2年 西山月渚

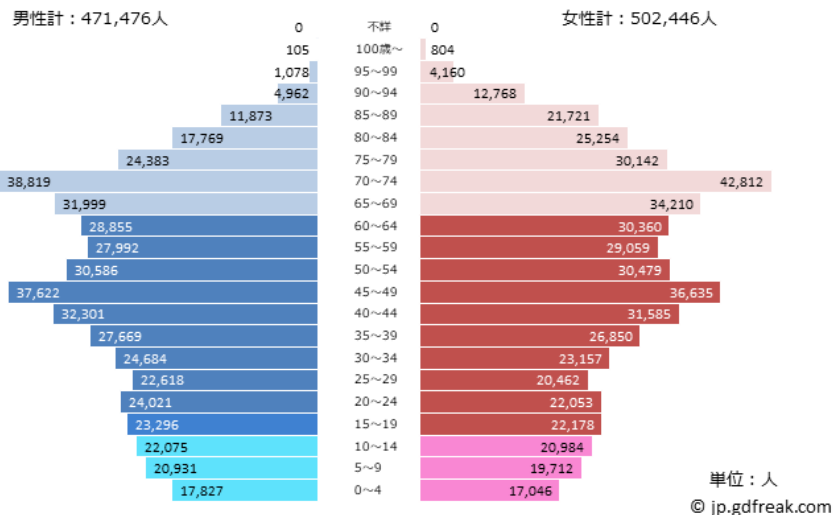
### 1. はじめに

日本は、少子高齢化が進んでいる。総務省統計局の調査では日本での総人口及び総人口に占める0～4歳と65歳以上の人口の割合が、平成元年には18.8%と11.6%から平成30年には12.2%と28.1%になり、若年者人口を高年齢人口が大きく上まわっていることが示されている。

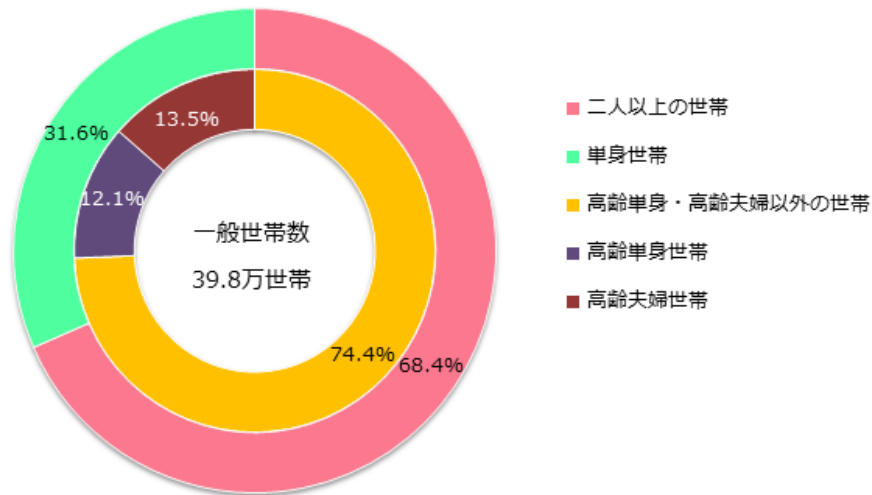


香川県でも今後も子供の数は減り、高齢者の数は増えていくことが予想される。2021年の香川県の人口ピラミッドは典型的な少子高齢化を示すつぼ型になっている。

香川県の2021年1月1日の人口構成 (住民基本台帳ベース、総人口)



## 2015年 香川県の世帯



※「高齢単身世帯」とは65歳以上の人一人のみの一般世帯

「高齢夫婦世帯」とは夫65歳以上妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

© jp.gdfreak.com

上のグラフは、2015年の香川県の世帯数とその構成の割合を示している。同居の高齢者は12.2%を占めており、高齢夫婦世帯も13.5%に上っている。

高齢化は認知症や介護を必要としている人の増加を示すし、このグラフからは独居の高齢者の増加や老老介護の問題も深刻であることがうかがえる。

少子化や高齢化が進むと社会の活力が失われていくことが予想される。少子化に歯止めをかけ、高齢化に伴う問題を解決することが郷土香川を元気にすることにつながるはずだ。少子高齢化が進む中、郷土香川を元気にするために求められることを探っていきたい。

これ以降は少子化に伴う問題への対策、働きながら子育てをする親世代の問題への対策、高齢化に伴う問題への対策に分けて考察していきたい。

### 2. 少子化に伴う問題への対策について

少子化社会の中で、子供を育てることにどのような問題があるのだろうか。その問題を解決することで少子化問題は改善され、社会が元気になるのではないかと考えた。安心して子供を産み育てるために自治体はどのような取り組みをすればよいかを探った。

#### a 【子供が増えている自治体の取り組みを参考に考える】

##### ・千葉県 印西市

印西市は、子育てもしやすく実際に子供の数が増えている街だ。その背景には、治安や交通安全に配慮した道路整備、自然豊か、公園が多いなどの子供がのびのびと生活できるような環境が整っている。

・愛知県 長久手市

長久手市は、大型ショッピングモールなどが集まっていて日常的に必要な買い物がしやすいという利点がある。また、大きな小学校や公園もあり子供はもちろん子育てをする親にも助かる環境が整っている。

・千葉県 流山市

流山市は、30～40代の子育て世代が最も多く増加しており、4歳以下の人口も増加している。市は子育て世帯のサポートにも取り組んでおり、駅前送迎保育ステーションで保育園児を預かり保育園までバスで送迎するというサービスを提供している。また保育園の新設や増設も毎年進められている。

・岡山県 奈義町

子供が多ければ多いほど手厚くなる子育て支援がされている。下の表は奈義町でおもに行われている子育て支援の例だ。経済的支援も手厚いことがうかがえる。

奈義町の主な子育て支援策	
事業	内容
出産祝い金	第1子10万円、第2子15万円、第3子20万円、第4子30万円、第5子以降40万円を支給
不妊治療助成	県指定の医療機関で特定不妊治療を受けると、年20万円を限度に県の助成を引いた額の2分の1を通算5年間助成
妊婦・乳幼児健診	妊婦健康診査を14回まで公費負担
乳幼児、児童、生徒医療費助成	高校生までの子どもの医療費のうち、保険診療にかかわる自己負担分を町が負担
やすらぎ福祉年金	中学3年生までの子どもを養育するひとり親に年5.4万円支給。第2子以降は1人増すごとに2.7万円加算
保育料多子軽減	保育料を第1子で国の基準の55%、第2子で半額、第3子以降無料
在宅育児支援手当	幼稚園入園前までの子どもを在宅で育児する保護者に1人当たり月1万円を交付
病児、病後児保育	小学校3年生までの病児、病後児を個人負担2,000円で保育
つどいの広場「ちゅくしんぼ」	利用無料で子育てアドバイザーが相談受付
子育てサポート「スマイル」	小学校3年生までの子どもをなぎチャイルドホームか子育て援助者の家庭で預かる。自己負担1時間300円
高等学校就学支援金	高校生の就学支援で通学費の一部を含め、年9万円を3年間支給

出典：奈義町「定住・子育て支援対策」

このように子供の数や子育て世代の人口が増加している自治体は、「子どもがのびのびと生活できる環境づくり」、「買い物など親世代の生活のしやすさ」、「保育サービスの充実」、「経済面を含めた子育て支援」という特長がある。このような取り組みは、親が様々な点で余裕をもって子育てができ、子どもがのびのびと安全に成長できるということにつながっている。自治体が様々な面から子供の成長をバックアップしているということだ。

### b 【少子化の中で育つ子供をバックアップする保育所の取り組み】

兄弟が少なく、核家族化も進み限られた人としか接しない子どもも増えている。そのような中で、保育所や幼稚園の果たす役割は大きい。兄弟の少ない中で多くの子ども同士で遊ぶことは様々なことで学ぶ機会になっている。それだけでなく保育所で地域の人や高齢者との交流の機会を設けることを子供たちがお年寄りをいたわる気持ちが芽生え思いやりやマナーが身につくのではないだろうか。また、高齢者にとっても子供とふれあうことで自分の役割を見つけ活力が生まれるだろう。

現在でも行われている保育所での交流事例として、お誕生日会や季節の行事、お茶のお稽古、敬老の日に肩たたきをしたりおやつを食べたりする、一緒に体操や歌、絵を描くなどがあげられる。

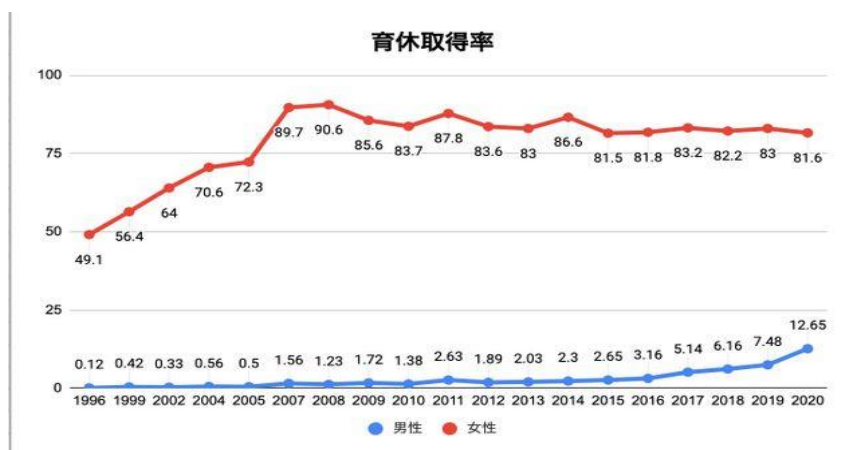
これらの行事は特別なものになりがちだ。しかし、私はこれらの行事を同じ方を定期的に招待し子どもたちが色々な経験をすることで、日ごろ接する機会の少ない世代の人間関係をつくる機会にするべきだと考える。その機会を通して、子どもたちの人間力が増したり、豊かな心を育んだりすることにつながるはずだ。

助産院と保育施設、デイサービスを併設している「いのちの応援舎」の山本文子さんにインタビューをした。子どもの産声が聞こえ子どもと高齢者が大家族のような「いのちの応援舎」では、誰もが楽しく生き生きと生活しているという。実際に生まれたての子どもを抱いた高齢者は、自然と笑みがこぼれ温かい気持ちになる。命の芽生えを実際に体感することができる「いのちの応援舎」のような施設はこれからの社会に希望を与えるような施設になるだろう。

## 3. 働きながら子育てをする親世代の問題への対策

### a 【男性の育児休暇取得の促進を図る】

厚生労働省の発表によると、女性の育児休暇の取得率は80%以上を維持しているものの、2020年度における男性の取得率は12.56%で女性との差は非常に大きい。香川県の男性育児取得率も、長期的には増加しているが、依然として低い水準にあるのが現状だ。



子供を複数人生んでいる家族は、父親の家事・育児参加の多い家庭であるというデータもある。少子化の改善には、父親が家事・育児に参加しやすい環境をつくるべきである。問題になっている長時間労働や残業の増加を改善しワーク・ライフ・バランスの乱れを正すことが必要である。

香川県では、毎月19日を「かがわ育児の日」としている。この育児の日が効果のあるものになるためには、それぞれの事業の協力が不可欠である。例えば、19日に育児の時間をとったり、在宅ワークをできる日にしたりする。在宅ワークにすれば通勤時間がなくなり、心にゆとりができ家事・育児に参加できるのではないだろうか。

女性の育児休暇取得は進んできているが、男性はまだ遅れている。男性の育児休暇取得率を増やすには、それぞれの会社で育児休暇を義務付けるなどの大胆な政策をとらなければならないと考える。

#### **b【病児保育の充実】**

子供が病気になってしまって幼稚園や保育園に行けず共働きやひとり親で仕事を休むのが困難な時、病児・病後保育施設で預かってもらえるというサービスがある。

香川県内で病児・病後保育を実施している施設は20か所ある。

しかし、いつもと違う場所で過ごす子供は不安になる。この不安を少しでも解消するためには、保育所ごとに病院と連携するなどして、利用する施設をひとつに決める、「かかりつけ病児保育施設」とでもいうような制度をつくとよいと思う。しかし、子どもが病気になったときは親子ともに不安なので、一番は安心して休暇をとれる社会の雰囲気、制度づくりが必要であると考えます。親世代が安心して子育てと仕事を両立しながら生活できることは、少子化の改善や社会にも活力を生むことにつながるはずである。

#### **4. 高齢化に伴う問題への対策について**

独居する人の増加、高齢者の交通事故の問題、認知症や介護の必要な人の増加など深刻な問題が多い。これは高齢者自身の問題でもあり、若い世代の人々の問題でもある。

##### **a【高齢者が役割や生きがいをもつ】**

徳島県上勝町の彩事業(葉っぱビジネス)は地域の資源を使って地元の高齢者に仕事をつくったことで注目されている。上勝町は徳島県内部にある高齢化率が50%を超える過疎高齢化の進む町である。株式会社いろどりは、「刺身のつま」などに使われる葉っぱを扱う事業所で高齢者に仕事をもたらしている。彩事業をすることで高齢者は体を動かし、頭を働かせる。また、役割ができ必要とされるので生き生きと生活できる。上勝町は、最も高齢化が進む町でありながら一人当たりの医療費はトップクラスに少ない。

## b 【子世代が仕事と介護を両立できるような介護休暇制度の充実】

介護が必要な人は年々増加している。また、脳出血などで介護が必要になる人も多く、介護が突然始まることもある。そして、介護が理由で離職するのは8割が女性だ。離職せずに仕事と介護を両立できるようにするには、介護休業制度などを利用することが有効だ。特に、分割取得できた人は就業継続率が高いというデータもあることから、分割して取得できるようにしたり取得できる日数を増やしたりすることも必要だ。

介護サービスや休暇などを誰もが利用しやすくすることが仕事と介護を両立していくうえでのカギになると思う。

### 【介護休業の分割できた場合の継続就業率】

	継続	離転職
休業期間を分割できた	87.7%	12.3%
休業期間を分割できなかった	81.5%	18.5%

## 5. まとめ

香川県でも加速している少子高齢化は、子どもにも大人にも、そして社会にも大きな影響を与える。その影響を少しでも解消するためには、それぞれの地域や社会、保育施設でのバックアップが必要不可欠だ。子供が増えてきている地域や高齢者が生き生きと生活している地域は、子育て支援や安全に過ごせるような環境づくり、高齢者の生きがいとなるような活動などが充実している。子育てや介護を仕事と両立するための休暇制度を利用しやすくすることも欠かせない。香川県をより一層かがやく県にするためには、少子化問題に歯止めをかけ安心して子育てができ、高齢者になっても生き生きと生活して老いていく、そしてその老いを支えるシステムが必要だと考える。

### 【参考資料】

- ・総務省統計局統計トピックス No.119 統計が語る平成のあゆみ  
< <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1191.html> >
- ・香川県の人口と世帯 < <https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp> >
- ・新・公民連携最前線 シティブランド・ランキング 2019  
< <https://project.nikkeibp.co.jp> >
- ・千葉県流山市ホームページ < <https://www.city.nagareyama.chiba.jp> >
- ・岡山県奈義町ホームページ < <https://www.town.nagi.okayama.jp/> >
- ・HUFFPOST これからの経済 < [https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp) >
- ・ウィキペディア < <https://ja.wikipedia.org/wiki/> >
- ・厚生労働省 改正育児・介護休業法 参考資料集